

せわやかにカラ情報

一隅を照らす十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

六月…土を知る

十島村教育長 原口 英典

6月16日から3日間、十島村20名の中学生が、島を離れて、今年から始めた鹿児島市での「職場体験学習」に取り組んでいる。

この事業は、これまでも、各島々で取り組んできた「職場体験学習」を一步進めて、さらに視野を広げ、併せて、改めてわが島の、わが村の産業に関心を寄せ直し、「村を育てる学力」を身に付けるための取組として、村長が予算化して下さったものである。

ある職場を訪ねていくと、4歳児、5歳児の給食の準備をせわしく、真剣な表情でしている。聞けば、園児らともかけっこをしたり、目線を園児らの高さにしようとしていたり、すっかり幼稚園の先生方と、ともに気持ちをそろえようとしているとのこと。また、ケーキ店においては、クッキーを一個一個袋詰めしたり、イチゴを一粒一粒スポンジケーキの上に並べたりしている姿もあった。ずっと立ちっぱなしの手作業である。ケーキ等のおいしさの陰には、ごまかしのきかない手作業が、瞬間瞬間積み上げられているのだ。また、直接製品に関係のない拭き掃除や窓ふき、水掛、周辺のゴミ拾いをしながら、子どもたちは、そこにも大きな意味があることを、そして、働く土台としての本当の意味があることをつかもうとしている。

「木を知るためには、それを育てている土を知らねばならない。」(小川三夫『棟梁』)という言葉がある。ケーキ屋さんの仕事を知るには、ケーキの味の素になっている「土」を知ることが大事なのだ。それは、店が一見軽視しがちな窓ふきやゴミ拾いなど、物言わぬ命の声をこそ聞き取ろうとしている構えであり、息遣いなのだ。体験学習が終わった後の「体験発表」の場で、子どもたちが、いみじくもそのことを口にくれた。子どもたちが、そんな素敵な職場で、今回働くことの体験をさせてもらえたことに感謝している。この行事の裏には、担当校の先生方や各島の学校の担当者が、教育委員会も交えてテレビ会議システムを駆使して、用意周到に準備し、各事業所も子どもたちの行きたい職場の要望を取り入れ、上鹿する機会をとらえて開拓したり、依頼したりしている。「村を育てる学力」のさらなる高まりを大いに期待したい。

新緑の香に新緑の風を待つ(汀子)

【満喫した修学旅行】

十島村小学校連合修学旅行が、5月14日から17日にかけて実施されました。熊本方面へ3泊4日の旅です。今年は、小学校5,6年生22名が参加しました。14日の夜、ホテル満秀での結団式では、「友だちをたくさん作って楽しい旅行にしたい。」と期待に満面の笑みを浮かべていた子どもたち。熊本城、熊本市内自主研修、田原坂資料館、グリーンランドと、行く先々から「順調、皆元気。」という報告を受けながら、彼らの満足げな笑顔を思い浮かべることでした。17日の南埠頭での解団式では、何人もの児童から、楽しかった旅行の思い出と一緒に修学旅行ができたことへの周りへ感謝の言葉が語られました。



子どもたちにとって「見聞を広めながら友だちと絆を深めた有意義な旅行」になったこと、また感謝の心が育っていることなど、とてもうれしく思うことでした。「今後の生活に生かしていきたい。」と言った子どもたちの今後を、しっかりと見届けていきたいと思えます。

シリーズ—十島の学校にやってきて



小宝島分校小学校4年 有馬 凜

私が小宝島に来て2年目になります。この1年間はあっという間でした。3年生になり、いろいろな出来事がありました。その中でも一番心に残ったのは、新しく来たお友だちのことです。3年生では、教室が広くなったり、複式になったりといろいろなことがわかりました。新しいお友だちは絵夢さんという4年生です。絵夢さんはいつも元気です。あいさつも大きな声で、すごいなあと思います。絵夢さんとは、すぐに仲良くなれました。絵夢さんがいると、楽しくなかった遊びが楽しくなるような気がします。

ふくしきのじゅぎょうでは、4年生の学習が気になって見てしまったりしました。もちろん4年生が3年生の学習をみたりもしました。絵夢さんが小宝島に来て1年が過ぎました。時にはけんかもありますが、仲なおもしていないのに、次の日には仲良くなっていることがほとんどです。来年も絵夢さんが小宝島に来てくれるといいです。また、他のお友だちも小宝島に来てほしいです。4年生では、毎日仲良くできるように友だちを大切にしたいです。今では、友だちがいてよかったなと思います。



シリーズ—山海留学生として学ぶ

宮崎県立飯野高校1年 日高悠斗 [平成26年3月平島中学校卒業]

僕は、4年間平島に住んでいました。4年間はあっという間に過ぎていきました。初めて平島に来た時は、小さい島で不便な事も多いかもしれないと思い、少し不安でした。しかし、僕は自然が大好きだったので、こんなに自然があるところで暮らせるんだという喜びもありました。先輩たちもみんな優しく、島民の方々も、すれ違うとき必ずあいさつをしてくださいます。島に来たばかりの頃は、「なぜ知らない人とあいさつをするのだろう。」と思っていました。しかし、島で過ごすうちに、だんだんあいさつの大切さがわかってきました。島に住んでいる方々は、すごく心優しい人ばかりだと思いました。

そして、2年3年とあっという間に過ぎていき、いつの間にか受験生になっていました。中学3年生になると、平島で過ごした日々が思い出となって毎日のようによぎり、まだこの島に住んでいたいという気持ちが強くなって、寂しくなってきました。しかし、寂しがり屋の自分から卒業して、大人への道を1歩踏み出すんだと言い聞かせ、寂しくないようにしていました。どんどん一日が過ぎていくのが早くなっていき、もう卒業です。本当に4年間あっという間に過ぎていってしまいました。

☆今年も水難事故ゼロに☆

いよいよ7月が目前に迫り、子どもたちにとっては楽しい夏休みが近づきました。今年も是非、水難事故ゼロを目指して楽しい夏休みにしたいものです。そこで、特に学校や水難事故防止対策連絡会等では、次のような取組をお願いします。



- 1 危険箇所の点検と危険表示の確認
- 2 遊泳できる場所の選定と安全管理
- 3 遊泳禁止区域では絶対泳がせない指導の徹底
- 4 大人の同行による遊泳(一人で泳がない)
- 5 島を離れて慣れない場所での遊泳時の注意

十島には、海水浴場がある島もあれば、切り立つ岩で泳げない島もあり、泳げる環境がそれぞれ違います。島であるいは島外で泳ぐにしても、しっかり準備運動をして、急に水に飛び込まないこと、一人では絶対泳がないこと、近くに大人がいることなど十分注意して、楽しい夏休みにして欲しいです。各家庭においても、特に子どもだけで泳がせないことの指導の徹底をお願いします。

平成26年度鹿児島県教育委員会スローガン
「水に親しみながら、みんなで めざそう
水難事故ゼロ」

【子どもたちの作品】

新しい出会い (2014.4.30 MBCラジオ「私たちの作文」放送)

宝島小学校6年 今村 治樹 (5月号に続く)

ここで生活できるのだろうかと思ったが、一人で僕たちの面どうを見ることになる母は、もっと不安だろうと思ひ、「宝がありそうな島で楽しみだね。」と言ったら母は「そうだね。わくわくするね。」と返してくれた。でもひょっとしたら、内心は母も僕と同じ不安な気持ち



だったのかも知れない。宝島での生活が、その日からスタートした。鹿児島市との生活のちがいは予想以上に大きかった。店は1けんしかなく、島民の方が共同で運営しているため、朝の1時間と夕方の2

時間しか開いていない。24時間開いているコンビニエンスストアと比べると大きな違いだ。品物も限られていて、ほしいと思ったものがすぐには手に入らない。どこかに遊びに行こうにも、周囲14キロメートルのせまい島なので、行く場所は限られている。それでも5か月たった今、ぼくはこの島がとても気に入った。父と離れて生活することで初めて、一人暮らしをしている父に思いをはせる自分がいた。同じ学校で過ごす母が、一生けんめい仕事に取り組みながら、その後、家で食事をつくらたり、せんたくをしたりと夜遅くまでがんばっていることも身をもって知った。遊ぶところがあまりなくても、友だちさえいれば楽しいことにも気付けた。

新しい出会い。それは、気付かなかったことに気付くことができた新しい自分との出会いだった。宝島に感謝したい。



十島村の小・中学校からのメッセージ ㊹

宝島小・中学校 教頭 上 恭崇

宝島に来て1年余りが過ぎました。赴任した日はあいにくの雨模様だったのですが、フェリーとしまが宝島に着く頃には日が差し始め、空がきれいに晴れ上がったことを今でも鮮明に覚えています。

当初は、いろいろな面で分からないことが多く、不安に感じる時もありましたが、日が経つにつれ、職場の皆さんや地域の方々のご支援・ご協力により、教科指導をしながらの学校運営や日常生活にも徐々に慣れてきました。家から学校までの上り坂も、初めは遠く感じていましたが、今ではすぐに着いてしまう感じになりました。

また、妻と息子2人での赴任となりましたが、子どもたちの方が新しい土地に慣れるのも早く、虫取り編みを持って島のあちこちを走り回り、見つけたチョウの名前を地元の方に教えてもらい、私よりも先にチョウ博士になっていました。長男は、本年度から宝島小学校に入学し、仲の良い友だちもでき、毎日いきいきと充実した生活を送っているようです。そして、小規模で小中併設の宝島小・中学校ならではの行事や取組を楽しみ、良い体験をさせてもらっています。

おわりに、これからも地域の皆さんとの関わりを大切にしながら教育活動を行い、宝島での生活をよりよいものにしていけたらと思っています。

教職仲間である「あなた」への
私からのメッセージ

異動するときは、知らない土地に行くことが多く、情報が少ないと不安も大きくなりますが、そこにはあなたを待っている子どもたちや保護者、地域の方々があります。そのことを胸に、日々教育活動に励んでいけたらと思います。また、「お互い様」とか「相身互い」といった人と人とのつながりを肌で感じるができるのは、島の魅力の1つではないでしょうか。